

友だちを叩く子

ほかの子どもが後ろを通っただけで叩いたり、教室の中に入った途端友だちを叩く子どもがいます。その理由は大きく次の4つです。また、4つのうちいくつかが関連している場合もあります。

言葉にすることが苦手

① 語彙数が少ない

言葉の遅れはありませんか。語彙数が少ないと、そのときどう言っているかわからず、自分の思いと異なることが起きると、手が出てしまったり、噛みついてしまったりすることがあります。

《解決のヒント》

身振りと言葉で伝える見本を見せよう。言葉が出るようになると、叩かなくなりますが、叩いたり言葉で伝える以外の方法も教えよう。

② 自分の言葉を聴いてもらった経験が少ない

いつも大きな声で話したり、声がしゃがれていませんか。自分の話を聴いてもらうためには大きな声で話さないと聞いてもらえない環境で育っている子どもがいます。伝える相手が子どもだと、声を出すよりも、叩くことがあります。

《解決のヒント》

その子どもやりたいことを満たすように心がけよう。先生がその子どもの拠り所になることで、先生に助けを求めるようになります、それから言葉での伝え方を見本を見せながら教えるようにしよう。

運動発達が遅れている

言葉はたくさん知っているのに、片足立ちや、斜面を走るのが苦手だったり、粗大運動にぎこちなさはありますか。

足元がふらつきそうなタイヤの上ののっているときや階段などでは、大人はいいけれど、子どもが傍に来ると、自分が転んでしまうのではないかと恐怖に襲われます。その結果、「叩く」という行為になってしまいます。

《解決のヒント》

自分の身体を扱えるよう、しっかりと遊ぼう。足の裏を使って地面を捉えて走る築山を走ったり、大人と相撲ごっこで両足を踏ん張ったりする遊びなどをします。無理やりではなく、楽しく遊べるように工夫しよう。

園生活に満足していない（不安やストレスがある）

良い行動を褒めるように心がけているのに、登園後、教室に入ったとたん、友だちを叩いてしまう子どもがいませんか。子どもは、「褒められたいから叩かない」「叱られたいから叩く」ではありません。無意識にも叩かざるを得ない心情をわかってほしいから友だちを叩くのです。

また、入園当初だったり、妹や弟が生まれたりといった、ライフイベントは子どもにとってス

トレスとなり、引っ込み思案になったり、逆に大人の注意を惹くために叩くなどの乱暴な行為でストレスを表現することもあります。

《解決のヒント》

その子どもが叩くことで得られる満足より、さらに満足できることは何かを考えよう。教室の中に、自分の遊びたい遊びが準備されていたら、園外でまとっている不快や不満を一気に忘れて遊びに没頭し、嫌なことを忘れてしまい、叩くことはなくなります。

叩くことが日常になっている

自分がされていること、目にしていることを子どもは同じように行動するものです。叩く子どもにとって叩くという行為は、コミュニケーションの手段になっている場合があります。

《解決のヒント》

叩くことを叱らず、その子のコミュニケーションの形を変えていこう。例えば登園の時に部屋の様子を丁寧に言葉で伝え、子どもが理解できるようにします。さらに、どのように友達の中に入るのか、叩く以外の方法で仲間に入る方法を練習をしておくのも一案です。その子どもが、先生は自分のことを受け入れてくれていると信じられるようになると、次第に先生の真似をするようになります。